

1997年(平成9年)8月15日号

No.730

毎月1日・15日発行

発行/芦屋市役所(広報課)

☎0797-31-2121

〒659 兵庫県芦屋市精道町7番6号

しそ森林王国との カヌー交流会を実施



市では、平成六年から、澄んだ空気と豊かな緑に恵まれたしそ森林王国(六粟郡五町：山崎町、安富町、一宮町、波賀町、千種町)と、芦屋三大まつりやしそ森林の祭典などへの市民参加をつうじて、ふれあい交流を図ってきました。

今回は、昨年に引き続き、七月二十三日(水)に、海に馴染みの少ない六粟郡の小学生(四十人)を招き、県立海洋体育館のご協力も得て、打出浜小学校の児童(二十四人)と芦屋浜でカヌー交流を行いました。

ほとんどの児童が初めての体験に、最初はちよつとビックリでしたがすぐに慣れて、昼食にみんなでカレー

「カヌー体験」

六粟郡山崎小学校5年 佐野 未央

今年でカヌーは2回目です。昨年のカヌーは楽しかったけれど疲れた。でも、今年もこりずに参加してしまいました。広い海でカヌーをしていると何もかも忘れてしまうほど気持ちがいい。また、「がんばるぞ」という気持ちがわいてくる。来年も参加したいです。

を食べた後は、二人から三人乗りのカナディアンカヌーに六粟郡と芦屋の児童が仲良く同乗して、力を合わせてカヌーをこぎました。帰りには新しくできた友達と互いに、名前などを書いたカードを交換したりするなど、楽しい一日を過ごしました。

企画財政部総務課 ☎2005

モンテベロ市からの交換学生が市長を表敬訪問しました

7月23日(水)にモンテベロ市からの交換学生の、サヤ・ヤマグチさんとロレーナ・チェンさんが市長を表敬訪問しました。



市長からの歓迎の挨拶をうけたあと、日本に来て全体的にコンパクトな印象を感じたことや、市長が以前にモンテベロ市を訪れたという話題では、市長へモンテベロ市の感想を尋ねるなど、楽しく会話ははずんでいました。

7月29日に、芦屋からモンテベロ市へ出発した、交換学生の紺谷文子さん、永井あかねさんも同席しており、出発前に交換学生同士の交流ができました。

2人は8月15日の帰国までに、サマーカーニバル等の交流行事に参加し、親善の輪を広げました。

問い合わせ 国際交流協会 ☎34-6340

感謝を忘れない心を 市長からのメッセージ 21

今年も八月三日、芦屋サマーカーニバルが開催されました。昨年に引きつづき、芦屋市民まつり協議会の手により、復興のシンボルとして、市民の皆さまからの募金で、「みんなの希望」として花火が打ち上げられました。夏の夜空に大きく輝く花火に復興の夢を託しました。

▼そのまつり協議会の活動を支えてくださっているのが社団法人芦屋青年

会議所(芦屋JC)のメンバーです。今年創立二十五周年を迎えられ、七月にルナ・ホールで行われた記念式典では一年間をかけて市民の力で復興花火を上げた活動を「みんなの輪」というミュージカルにして披露され、参加者を感動させました。

震災の夏の暑い日、歌手五木ひろしさんの熱唱が忘れられない兵庫ふれあいの祭典「青空元気フェスティバル」と共催で精道小学校を会場に緑日中心のサマーカーニバルを実施されました。来年こそは花火の打ち上げだ、そのときからチャリティー活動が始まったのです。

▼二十五周年の記念誌を読むと、震災当時の芦屋JC理事長の福田薫さんは、北海道南西沖地震で「世界で一番早いサンタクロースが奥尻島にやってきた」として市民の皆さんの寄付をサンタクロースになってお届けしたお返しを、今度は「がんばれ!芦屋のサンタクロース」として奥尻島の子どもたちから寄せ書きをもらい、「震災が取り持つ絆」に胸が熱くなったとつづられておられます。

芦屋JCの上部組織である日本JCには、県立芦屋南高校に拠点を移した陸上自衛隊の引き上げ後の運営をお願いしました。震災一カ月後から三月末まで、毎日五、六十人のメンバーが深夜に及ぶ救援物資の受け入れ・仕分け、各避難所への食事の配達などを担っていただきました。

▼私は、この欄で震災当時の支援活動のご紹介をしておりますが、その動機は、各方面からの多大のご支援を改めて確認させていただき、そのご支援に感謝し忘れない心こそ復興への源泉であると確信するからであります。

芦屋市長 北村 春江



“3年ぶりドラゴンボートレースが復活”

第19回芦屋サマーカーニバルが開催されました

8月3日(日)午前9時より、ドラゴンボートレースがスタート。金魚すくいやわた菓子など約90店が出店した縁日のほか、特設会場でのステージイベントと続き、午後8時からは南芦屋浜地区から1075発の花火が打ち上げられました。暑い夏、参加者約10万人がさらに熱くなった1日でした。

商店街復興夏まつり



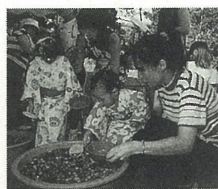
商店街の復興を記念して、夏まつりを開催します。各種イベントをお楽しみください。

復興えきにし“ゆかた祭”&地蔵フェスタ'97

日時 8月23日(土)~24日(日)午後5時30分~9時 ※雨天の時25日(月)に順延
会場 JR芦屋駅北側を西へ200メートル、地蔵前
内容 ゆかた記念撮影・縁日コーナー・わた菓子プレゼント(お店でスタンプを押してもらってきてください)

復興ふれあい夏まつり

日時 8月30日(土)午後5時~ ※雨天の時31日(日)に順延
会場 芦屋浜センター北(コープ打出浜南側)
内容 盆おどり・縁日コーナー・ビンゴゲーム



問い合わせ 芦屋市商業活性化対策協議会 ☎28-2071

ごわん
ない REPORT

募集

文化振興財臨時職員
①日給職員●職種…体育館・青少年センターの受付事務等(勤務は変則勤務)●人数…3人●募集期間…8月20日(水)～25日(月)●選考日…8月27日(水)●採用予定日…9月1日(月)
②時間給職員●職種…体育館トレーニング室の運営・指導●勤務時間…平日17時～21時、日・祝日9時～18時、週3～4日勤務●人数…若干名●募集期間…8月27日(水)～9月10日(水)●選考日…9月12日(金)●採用予定日…10月1日(水)●問い合わせ…文化振興財団スポーツ振興課(☎31-8228)

お知らせ

防災訓練のお知らせ
市民の皆さんもご参加ください。
●日時…8月29日(金)10時～12時●会場…打出浜小学校●内容…避難訓練他●問い合わせ…防災対策課(☎38-2093)

住みよい芦屋をつくるポスター募集
●テーマ…①リサイクル活動②残したい芦屋の環境●資格…市内の小学生(1人1点)●サイズ…4ツ切画用紙(画材は自由です)●受付期間…9月8日(月)～12日(金)に下記へ
問い合わせは、環境管理課(☎38-2051)へ。

県身体障害者作品展の作品募集
第9回兵庫のまつり—ふれあいの祭典
9月11日(木)から17日(水)に県民会館で兵庫県身体障害者作品展が開催されます。その出品作品を募集します。
●募集作品…絵画、書、写真、工芸、手芸品等●応募資格…県内在住の身体障害者(児)●締め切り…8月25日(月)●問い合わせ…福祉課障害福祉係(☎38-2043)

国際交流協会からのお知らせ
＜A・C・A・T・ワイルドコンサート＞
—中国古箏を奏でる—
●日時…8月22日(金)18時～19時●会場…ラ・モール芦屋1階アトリウム●演奏者…蔡愛琴氏
●第10回ユース・クラブ>
●日時…8月31日(日)17時15分～18時45分●会場…国際交流協会会議室●内容…「ボランティア活動—新しい生き方をめざして—」●講師…大阪ボランティア協会事務局次長・名賀亨氏
●作って食べよう世界の料理—中国編>
●日時…9月6日(土)10時～14時●会場…市民センター料理室●講師…陶林氏

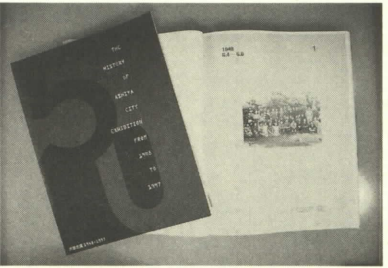
『芦屋市展1948—1997』に思う

今日、一地方都市が美術館を持ち、美術館を開催するといったことは稀なことではありません。しかし、昭和23年、敗戦の混沌のなかでいち早く開催された第1回芦屋市美術展覧会の「何人も随意に応募することができます。」との呼び掛けから、心の復興は文化から、とのメッセージが伝わってくるようで、阪神・淡路大震災の惨禍癒えぬ今、その先人の熱き思いが蘇り、市展の継続は、その優れた思いの継承であるという感慨に心温まるのです。
発足当初から今日まで一貫して個性、獨創性を重んじ、造形の可能性を追求して、多くの傑出した作家を世に送り出した市展の歴史は、現代絵画の歴史でもあるのです。
時代は21世紀へと向かいます。芦屋市立美術館・芦屋市文化振興財団を発信基地として芦屋からの文化のメッセージが国内にとどまらず広く張り巡らされたネットワークに乗って、世界に届く日が来ることを願っています。
50年を一里塚として、新たな一歩を踏み出しましょう。
1997年7月

芦屋市美術協会代表 田中 竜児
〔『芦屋市展1948—1997』所収巻頭言から抄録〕

芦屋市展・芦屋市美術協会50年のあゆみ

- 昭和23年 4月 芦屋市美術協会発足
6月 第1回芦屋市美術展覧会、旧市庁舎で開催(応募数:233点、展示作品数:144点)
- 昭和24年 第2回芦屋市美術展覧会、仏教会館(以降、第5回まで)で開催
吉原治良氏が協会代表に就任
- 昭和26年 第4回芦屋市展開催(芦屋市美術展覧会から名称変更)
- 昭和28年 第6回芦屋市展、精道小学校(以降、第16回まで)で開催
市展応募作品数727点(市展史で最高点数)
「真夏の太陽にいどむモダンアート野外実験展」(芦屋市美術協会主催、芦屋公園)
- 昭和30年 第17回芦屋市展、公民館で開催
伊藤継郎氏が協会代表に就任
吉田一夫氏が協会代表に就任
田中竜児氏が協会代表に就任
- 昭和39年 美術博物館開館
- 昭和47年 「甦る野外展」開催(美術館主催)
- 昭和52年 阪神・淡路大震災のため、市展中止
- 平成2年 第50回芦屋市展、美術館で開催(応募数:609点、展示作品数:372点)
- 平成3年 『芦屋市展1948-1997』刊行
- 平成4年
- 平成7年
- 平成9年



刊行された記念誌「芦屋市展1948-1997」

芦屋市美術協会と美術館の編集により本年7月に発行。市展50年の歩みを集大成した、約400ページの大冊。
諸般の事情で未刊行となった「芦屋美協40年」「よもやまばなし」や昭和24年から25年にかけて発行された『アシヤ美術』(芦屋市美術協会発行)も収められています。
美術館で販売(価格5500円)。

具体美術協会

吉原治良氏を軸に昭和29年8月ごろ、芦屋市で関西の若手作家を中心に設立された美術団体。展覧会、野外展、舞台展等多彩な発表活動を展開し、国際的に高く評価されるが、昭和47年吉原氏没後、解散。

《時代を担う作家を輩出》

芦屋市展の審査員の中でも特に強い影響力を持っていたのは、吉原治良氏だったと言われています。当時、関西でのモダンアートの中心的人物でもあった氏のもとに、前衛を目指す若手の画家たちが作品を持ち込んでおり、氏は彼らに市展への出品を勧めていたようです。初期の出品者には、後の具体のメンバーとなった山崎つる子氏(第1回展)や嶋本昭三氏(第4回展)さらには元永定正氏(第6回展)などがあり、吉原氏の吸引力・影響力ぬぎに当時の市展洋画部門を考えることは困難に思われます。元永氏は後に「出品した私の裸婦は入賞したのだったが当時の芦屋市展はほとんどが抽象作品ばかり、その新鮮さに驚いて私も抽象を描いてみようと思った」(『元永定正作品集』)と語っています。前衛画壇への登壇ともいわれた当時の市展の情景が想像されます。吉原氏のもとに集まった画家たちは具体グループとして世界的な芸術活動を展開することになります。

洋画部門に限らず、市展への出品作家は、現代日本美術展等の公募展をはじめ数々の現代美術展に選ばれ、時代を担う作家として活躍しています。
また、第18回展から「その他」という部門が設けられていることも市展ならではのユニークな取り組みといえます。

芦屋市展50周年
輝かしい50年から
さらに新たな一歩を

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

今年で50回を迎えた公募展「芦屋市展」が、6月28日から日本画・写真・彫塑・工芸を、7月8日からは洋画およびその他の部門に分けて開催されました。芦屋市展は市民文化の発展を目指して、昭和23年他市に先駆けて開催されてから半世紀。阪神・淡路大震災に見舞われた平成7年を例外として毎年開催され、永年にわたって多くの方々に親しまれている公募展です。今年から会場が市民センターから美術館に移して開催され、新たなスタートを切りました。



第20回芦屋市展ポスター 吉原治良氏制作

《次世代に向けて》

『アシヤ美術』創刊号で既に芦屋の美術館建設がうたわれていましたが、平成3年に美術博物館が伊勢町の文化ゾーンの一角に建設され、平成8年度から市展を担当することになりました。
阪神・淡路大震災で市内の建物の約90%が被災(全壊・半壊は約60%)するという大惨事からの復興期の中で迎えた市展50周年ですが、歴史の流れの中に感慨を新たにしたいと思います。終戦後間もない混沌とした時代に、日常生活の中での文化の重要性を思い、プロ、アマチュアを問わず、芸術家たちとそれをサポートする人々の精神の高揚が脈々と息づいています。市展と並ぶ童美展も既に昨年12月美術館に会場を移して開催され、ホールを埋め尽くした児童の作品展で活況を呈したところ。市展では若きアーティストたちが、童美展では元気な子どもたちが市内のみならず各地から芦屋を目指してアートを運び込んでくる場として発展していきたいものです。
震災からの復興途上の芦屋市にあって、今一度市展の経緯を振り返り、先人たちの努力を思い、市民のみさんの参加でより大きな活力を育むことによって、国際文化住宅都市にふさわしいまちづくりの一翼を担っていきます。

第2回 公募
会期 6月9日～13日
芦屋市展
日本画・洋画・彫刻・工芸・写真
搬入口 6月4日～5日
出品 一大塚 久
市長賞 校舎賞 寄託賞
佛教会館にて
主催 芦屋市 全美術協会
第2回芦屋市展ポスター

【何人も随意に応募することができます】
【大きさは制限なしです】
(第1回展応募規定より)

この自由な発想のもとに定められた応募規定によって第1回展が開催されてから半世紀、今年で芦屋市展は第50回展を迎えました。

戦火で市民の約50%、市内家屋の約40%が被災した終戦後間もない昭和23年(1948年)4月に市内在住の美術家が結集して芦屋市美術協会が創設され、その2ヵ月後に第1回展が開催されています。部門として、日本画、洋画、彫刻、美術工芸、写真が設けられ、233点の応募作品の中から144点が旧市庁舎3階にあった市議会会議室に展示されました。

第1回の市展は、出品作のほとんどが10号(1号ははがき1枚の大きさ)程度の作品で、ささやかな展覧会といえますが、出品目録を見ると、会員の作品、入選作品とともにかつて芦屋に在住した小出権重や大橋了介の遺作をはじめ市内のコレクターから借用したと思われるマリー・ローランサン、シニャック、マチス、モジリアニ等の作品が展示されたことがわかります。これらからは、大正時代末から昭和初期にかけて華々しく発展したモダニズムの雰囲気を感じ起こされます。
当時の協会の中心メンバーは、二科会会員で九室会などを中心に前衛的な仕事をしてきた吉原治良氏、新制作の伊藤継郎氏、国画家の山崎隆夫氏、写真のハナヤ勘兵衛氏、小学校教員だった吉田一夫氏(いずれも故人)などでした。協会の活動は、創立後驚異的な勢いで、5月に写生会、7月末には洋画、日本画の講習会、8月下旬は、芦屋海水浴場において、海に因んだ学童の絵画展を、11月には第2回写生会、そして12月には第1回童画展覧会(のちの童美展)開催と続いています。

会長が芦屋市長という会則にかいま見ることができるよう、当時の協会は、おおらかな視点に立った「文化都市実現のために」(『アシヤ美術』創刊号)、市民および市が一丸となって戦後の復興にまい進する先導的立場にあり、周囲からも大きな期待と理解が寄せられていたと思われます。

第50回童美展

12月13日(土)～12月23日(火)

第51回芦屋市展

平成10年6月末～7月初の予定

*会場はともに美術館
ふるって、ご参加ください。

広報チャンネル番組ガイド9CH

放送開始	8/15(10:00～)～9/1(～10:00)
6:00	A 00分 あしやNOW(*)
9:00	15分 フレッシュレポート(*) 「絆づくり」第19回芦屋サマーカーニバル
12:00	00分 市民リポーター企画(*) 「フュッショナルタウン芦屋」
15:00	30分 健康ポップ・ステップ(*) 「ステップエクササイズ」
18:00	40分 広報カメラ撮りつきり(*) 美術博物館の催し 「わらじ作り」、「木片と遊ぼう」
21:00	50分 ナレーション付き文字放送 「ふれあい橋」

■日・月・木…ABC、火・金…CAB、水・土…BAC、の順に、午前6時から3時間サイクルで放送しています。
番組内容などに変更になる場合もありますのでご了承ください。(*)印の番組はビデオの貸し出しが可能です。
広報チャンネルに関する問い合わせ 広報課☎38-2006/CATV加入に関する問い合わせ CCA☎0120-181-344

体育館・青少年センターの
利用受け付けを開始します

10月5日(日)にオープン予定の体育館・青少年センターの利用受け付けを開始します。貸し出しロッカーも同時に受け付けます。

受付開始日 9月7日(日)から。
ただし、体育協会等が主催する全市規模以上の事業(市内大会等)は、8月16日(土)から受け付けます。
受付日時 水曜日～日曜日
午前9時～午後4時
受付場所 市民センター206室
問い合わせ 体育館・青少年センター(☎31-8228)



「差別をなくそう県民運動
ポスター・標語作品展」

～お互いを理解し合い、共に生きる社会へ～
そんな思いを込めて市内の小・中学生が制作した力作を展示します。
日時 8月27日(水)～9月1日(月)
9時～21時30分
(日曜日は17時まで)
会場 市民センター別館3階展示場
問い合わせ
生涯学習課 ☎38-2091

福祉映画会「グース」

カナダの大自然の中、14歳の少女「マ・グース」の愛は16羽の幼いグースたちと大空へ飛び立ちます。親子のロマンあふれるファンタスティックな物語。
日時 8月25日(月)
①10時～ ②13時30分～
会場 ルナ・ホール
上映協力費として300円をお願いします。
問い合わせ
社会福祉協議会 ☎32-7530

花と緑のお医者様
Q サツキの葉が赤さび色になり元気がありません。いつもよくつくグンバイ虫による白がすりでもありません。どうしてでしょうか?
A 多分赤ダニにやられているのだと思います。肉眼ではなかなかわかりにくく、目のいい人なら葉裏に付いているのがわかります。肉眼ではなかなか見えませんが、殺ダニ専用剤のアカリアル乳剤かケルセン乳剤を散布し退治するしかありません。
発生初期ならば、朝早くに冷たい水を葉裏にかけると全くいなくなるほど水に弱いので乾燥させないことが重要です。その際は、普通の殺虫剤(マラソン、スミチオン等)ではあまり効果がなく、殺ダニ専用のアカリアル乳剤かケルセン乳剤を散布し退治するしかありません。
Q 温度の高くなる真夏、それも乾燥が続くと大量に発生し、始末の悪い虫です。それにこの虫は、普通の殺虫剤(マラソン、スミチオン等)ではあまり効果がなく、殺ダニ専用剤のアカリアル乳剤かケルセン乳剤を散布し退治するしかありません。
発生初期ならば、朝早くに冷たい水を葉裏にかけると全くいなくなるほど水に弱いので乾燥させないことが重要です。その際は、普通の殺虫剤(マラソン、スミチオン等)ではあまり効果がなく、殺ダニ専用剤のアカリアル乳剤かケルセン乳剤を散布し退治するしかありません。
問い合わせは、緑の相談所(☎34-0031) 毎週水・金曜日の午前中。ラポルテサービスクーナー相談所(第1・3月曜日13:00～15:00)

E・D・U・C・A・T・I・O・N 教の育 の ページ

このページの問い合わせは
学校教育課(☎38-2087)へ

夏だ！ 心も体も元気に鍛えよう！

食中毒発生のため使用できなかった昨年の分まで大いに楽しもうと、学校園のプールには、子どもたちの歓声がよみがえりました。子どもたちの心と体が豊かにすくすくと育つように願いながら、安全管理を徹底し、教育活動を推進しています。ご家庭におきましても、日頃から子どもたちへ温かい声かけをお願いします。

待ちに待ったプール開き

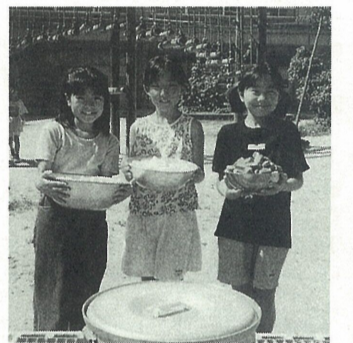
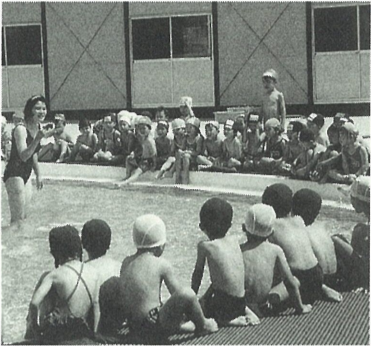
朝日ヶ丘幼稚園

今年の六月は雨が少なかったせいか、早くから幼児たちは水遊びをとても楽しみにしていました。プール開きの朝、市民プールの横を通過して登園してきたAちゃんは、「お水いっぱいで、キラキラ光っているよ」と知らせにきました。

さっそく例年お世話になっている市民プールへ皆で出かけました。係のかたからお話を聞き、青く透き通った水があふれる大小のプールに喚声が響きわたりました。

いよいよプール開きの始まりです。何がおこるのかナと皆の目がくす玉に集まります。ひもを引つばると中から涼しいリボンや水の中の生き物たち（発砲スチロールに描いたもの）が飛び出してきました。先生から、「今日からこんなにきれいな広いプールで遊べるのよ。嬉しいね。それでは、B先生には、ざりがに泳ぎを見せてもらいましょう。C先生には、ラッコ泳ぎをしてみよう」。

その様子を見つめる幼児たちの嬉しそうな顔、顔、顔。「はいりたいはいりたいよー！」の声に水が怖いと聞いていた幼児もつられてプールの中に入っていました。このプール開きの行事は、毎年幼児たちに新鮮な驚きと感動を与えてくれます。



大きな鍋でカレーに挑戦

恒例の打小村キャンプ

打出浜小学校

打出浜小学校では、四年生を対象に開校以来校内での一泊キャンプを続けています。協同生活の中でそれぞれにまかせられた仕事を自主的に行っていくという目標のもとに行事を進めてきました。

今年のキャンプでは、七月四日（金）梅雨の合間の猛暑の中で始まりました。給食を食べた後、運動場での開村式。リーダーの司会で元気いっぱい「キャンプだホイ」を歌いました。そして、さっそく夕食づくりです。それぞれ係に分かれて準備をし時間を有効に使っておいしいカレーライスができました。職員も全員集まって「いただきます」。

どの児童の顔も笑顔、笑顔。おなかもいっぱいになり、体育館での寝床を作った後は、いよいよ楽しみにしていたキャンプファイアーです。他学年の児童や保護者も大勢見学中、今年も素敵な「火の神」が出て来て、最高に盛り上がりました。しかし、その気分は、校内を巡る肝だめしで急降下。涙と冷や汗が児童をグシャグシャにしたようでした。暑さと興奮気分でなかなか眠れなかったようですが、日付が変わる頃には体育館にも寝息が広がりました。朝食の後、閉村式では、リーダーからの感想。それぞれが満足感と思いを胸に家路につきました。

学校園だより

五感を働かせて

岩園幼稚園

芦屋市の山側に位置する岩園幼稚園では、自然環境に恵まれ、季節を感じながら過ごすことができます。



幼稚園周辺の桜が満開になった4月、新しいスマックの4歳児を迎え、平成9年度がスタートしました。

幼稚園の門を入るとすぐ池がありカエル・こい・めだかなどが泳いでいます。子どもたちが園庭で遊んでいる横では、にわとりが散歩しています。年長の子どもたちは、うさぎやリスの世話をします。また各クラスでは、ハムスターや文鳥を飼う等、幼児と動物とのかわりを大切にしています。

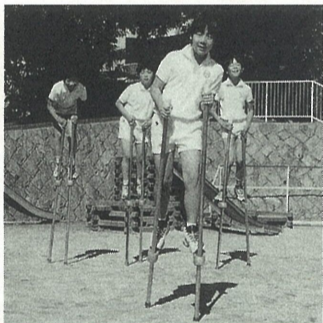
びわ・梅・柿・ざくろの木が実をつけて大きくなるのを楽しみに待っています。年長ではナス・オクラを、年少ではミニトマトを植え、収穫した野菜を家へ持ち帰っています。自分の育てた野菜を持ち帰る子どもたちの表情は本当に嬉しそうです。

この他、全身を使って遊ぶことも試みます。外で思いきり体を動かすことが少なくなっている子どもたちに、幼稚園では平均台・マット・とび箱等の道具を組み合わせ、存分に戸外遊びを促します。思いきり高く跳んだり転がったりしながら、体を動かす楽しさを味わいます。そして、遊んだ後の片づけは、友達や先生と力を合わせてします。

このように幼稚園での生活は、子ども一人ひとりが五感を十分に働かせることができるように工夫しています。

伝統に新風を吹き込んで

三条小学校



8時25分のチャイムがなるとすぐに6年生が運動場へ飛び出て行きます。今朝の運動場は6年生。一番人気があるのは竹馬です。自分の肩の高さまで足場を上げて、カシカシと歩いて行きます。目

の高さが1mほど高いだけで、周りの景色が違って見え、空気もさわやかだそうです。5年生はリコーダー。心地よい音の世界にひたっています。クラスの一体感が生まれるのはこんな時です。4年生は、転写タイム。一字一字ゆっくりと書き写しているうちに不思議と心が落ち着いてくると言います。2年生と3年生は読書の真っ最中。教室にシンとした空気が流れます。本の世界で何を空想しているのでしょうか。1年生はお話タイムです。分かりやすく話そうと一生懸命です。きちんと伝えられた時、思わず笑みがこぼれます。

これは、児童の体力、気力、思考力や想像力をさらに高めたいと本年度から始めた三条子どもタイム（朝15分）の様子ですが、すっかり子どもたちになじんでしまいました。

他方、三条には伝統ある授業研究発表大会があります。「自己教育力を育てる授業の創造」をテーマに震災の年も開かれ、今年で、18回を数えます。目標達成に向けて毎日の授業がそのまま研究につながっています。秋(10/23)の発表でさらにたくましく育った三条っ子を見ていただけたらと思っています。

PTAとの連携による

児童の安全確保

朝日ヶ丘小学校

登下校の安全について、朝日ヶ丘小学校ではPTAと連携をとり児童への指導や対策を積極的に進めています。

昨年、校区内で痴漢が多発したことから、学校、PTAは危機意識を持ち、学級指導の徹底と複数下校指導の実施を行いました。今年も、PTAによる通学路での立ち番の取り組みが、6月の初めの一週間にわたって行われました。ちょうど神戸での小学生殺害事件後ということもあり、緊迫した中での取り組みとなりました。

芦屋警察署や防犯委員・愛護委員等の協力により、誘惑にどう対処するのかのロールプレーや下校しながらの危険箇所の点検を児童といっしょに行いました。PTAでは全会員により交替で校区内通学路の28地点に立ち、下校する児童を見守りました。長時間の立ち番は決して楽ではなかったようですが、学年の違う子どもの顔が分かり、みんなで児童を守っていることをアピールできてよかったとの声が多く出ました。夏休み中のうさぎのえさやり、学級園での水やりといった当番活動も今年から登校班単位による集団登校としています。この取り組みは、単に安全のためだけでなく異学年による協同奉仕活動としての意義もあると考えています。

